



平林金属株式会社様に対する 『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』の実施について

百十四銀行（頭取 綾田 裕次郎）は、2023年6月30日（金）、大元支店取引先 平林金属株式会社（岡山県岡山市北区下中野 代表取締役 平林 実）に対し、当行第1号案件となる『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』を実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスは、お客さまの企業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを包括的に評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援する融資のことです。お客さまと当行が協議の上、マテリアリティ（重要課題）を解決するための取り組み方針を定め、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）を設定し、当行がモニタリングを行うことで、お客さまのサステナブル経営を後押しします。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

記

■企業の概要

会社名 平林金属株式会社
所在地 岡山県岡山市北区下中野 347 番地 104
業種 総合リサイクル業

【サステナブルな取組み】

『資源の有効活用』が、当社に課せられた地域環境保全に貢献できる最大の使命と認識し、主業である金属の再資源化をはじめ、さまざまな資源のリサイクルを推進します。

サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラル等に関連したプラスチックリサイクルの機運も高まっており、プラスチックの再資源化により脱炭素化社会の実現に向けた取組みを強化することで、環境保全に貢献してまいります。

『MOTTAINAI、ARIGATAI』をキャッチフレーズに、太陽光パネルのリサイクル技術研究や、中四国唯一の家電リサイクルプラントにおける家電の再商品化、全国初の有人型資源集積システム「えこ便」の展開など、不法投棄・違法回収の低減と、循環可能型社会の形成に向けた取組みを行っています。

※平林金属株式会社の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書」については、別紙をご参照ください。

以上

平林金属株式会社

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2023年6月30日



百十四銀行は、平林金属株式会社（以下、「平林金属」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、当社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、百十四銀行が開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 平林金属株式会社の企業概要.....	1
(2) 平林金属株式会社の事業概要.....	3
(3) 経営理念.....	7
(4) サステナビリティ.....	8
2. インパクトの特定.....	9
(1) バリューチェーン分析.....	9
(2) インパクトマッピング.....	10
(3) インパクトレーダーによるマッピング.....	10
(4) 特定したインパクト.....	13
(5) インパクトニーズの確認、百十四銀行との方向性の確認.....	15
3. インパクトの評価.....	16
4. モニタリング.....	18
(1) 平林金属におけるインパクトの管理体制.....	18
(2) 百十四銀行によるモニタリング.....	18

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 平林金属株式会社の企業概要

企業名	平林金属株式会社
創業	昭和31年10月
設立	昭和35年7月16日
代表者名	代表取締役社長 平林 実
資本金	9千9百万円
従業員	401人（令和5年3月末）
売上高	209億円（令和4年度）
事業拠点 （東海地域の 主な拠点）	本社（岡山県岡山市北区下中野347-104） 岡山工場（岡山県岡山市北区下中野406-1） 岡山東営業所（岡山県岡山市東区寺山33-1） 港工場（岡山県岡山市中区新築港1-22） 水島工場（岡山県倉敷市水島西通1-1920） 山陰工場（鳥取県米子市旗ヶ崎2315） リサイクルファーム御津（岡山県岡山市北区御津高津120-13） 西大寺工場（岡山県岡山市東区西大寺新地108-5） 玉島物流センター（岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8259-5）
事業内容	鉄・非鉄金属及び使用済み家電・自動車のリサイクル事業 <グループ企業> 株式会社ヒラキン リサイクルステージ玉島 ヒラキンテック株式会社 ヒラキン興産株式会社 葉豆瑠農園株式会社（瀬戸内市前島地区での農業事業） たからさがし株式会社（就労継続支援A型事業所）

<沿革>

1956年10月	平林久一氏個人創業
1960年7月	有限会社平林商店設立
1963年11月	平林金属株式会社に社名及び組織変更
1967年6月	野田本社工場開設
1971年4月	第二工場（プレス工場）開設
1972年8月	新岡山港営業所開設（現、港工場）
1973年8月	水島営業所開設
1981年8月	東岡山営業所開設
1982年11月	新工場を岡山市下中野に開設
1989年9月	旧米子営業所開設
1991年4月	港工場開設
1995年4月	本社・ヒラキンビル完成
1995年8月	神戸工場開設（震災復興対策期間）
1997年1月	岡山工場新築
2001年4月	リサイクルファーム御津開設
2001年11月	HIRAKINライズ球場開設
2003年 2月	HIRAKIN環座の会発足（取引先・業者の協力会）
2003年4月	山陰工場開設
2005年2月	リサイクルファーム御津が岡山エコ事業所に認定
2006年4月	（株）ヒラキン リサイクルステージ玉島開設
2007年11月	西大寺工場・技術開発センター開設
2009年 7月	水島営業所 新事務所完成
2010年11月	玉島物流センター開設
2014年 4月	平林 実氏 代表取締役社長に就任
2015年7月	えこ便西古松局 開設
2016年4月	えこ便安倍局 開設
2016年9月	えこ便 グッドデザイン賞受賞「地域・コミュニティづくり/社会貢献活動」部門
2016年12月	えこ便 並木町局 開設
2017年6月	港工場 新事務所 完成
2017年6月	御津 第二工場 開設
2017年12月	えこ便 大安寺局 開設
2018年5月	eポストサービス 開始
2018年12月	西大寺工場で古紙リサイクルスタート
2019年10月	えこ便 西大寺局 開設
2020年2月	使用済み家電製品入荷台数累計1,000万台を突破

(2) 平林金属株式会社の事業概要

「もったいない」「ありがたい」「独自性」「高品質」「日本リーグ加盟」の5つのキーワードを掲げ、鉄・非鉄金属の再資源化や家電及び自動車のリサイクル、農業、福祉、ソフトボール・軟式野球の実業団チーム運営と多岐にわたる事業を展開している。

「もったいない」は社風ともなっており、人や社会が「ゴミ」と思うものを「資源」と見て「ここから生かせるものを」、「捨てるのはもったいない、釘一本見逃すな」という創業の精神が表されている。

「ありがたい」は、「困難を常とし、世の中の役に立ってありがたいと思ってもらえるような仕事をしないとイケない」という平林金属のプロフェッショナリズムと、「片付ける」という仕事に誇りを持ち、「だれかが必ずやらなければならない仕事だから、自分がする」という価値を見だして日々、汗を流して働いてくれる社員への感謝の気持ちが表されている。

先の2つの理念を実現するために「高品質」のものづくりを心掛け、「高品質」を担保するための「独自性」として「各工場のラインに必ず人の目と手で選別・分解する作業の組み込み」と「自社に技術開発部門を設けて創意工夫し、オリジナルのリサイクル機器の開発・製造・設置・オペレーションまで手掛ける」ことに取り組んでいる。

最後の「日本リーグ加盟」は、ヒラキンのソフトボール部が男女ともに日本ソフトボールリーグに加盟して競技活動を行っていることを意味する。地方の中小企業が日本リーグに参戦していることは極めて珍しいが、これは「企業としてスポーツに取り組むぐらいの元気がないとダメ」という創業者の考えがもとであり、そのためにも安定した経営状態を保つモチベーションとなっている。

この「5つの言葉」が表す「ヒラキンイズム」のもと、高品質な再生資源生産と新しい再資源化技術の確立に取り組み、サーキュラーエコミーの実現を目指している。



主な事業領域

○再資源化・リサイクル事業

ヒラキンが行うリサイクルの対象は、家電製品、自動車、産業機器など、街や工場で本来の役目を終えた様々なモノである。これを独自のリサイクル技術で、鉄・銅・アルミなどのベースメタルや貴金属・レアメタルを含む希少金属類、プラスチック、紙などの純度の高いリサイクル資源に再生している。

ヒラキンでは、いままで不可能とされていた素材のリサイクル技術開発にも数多く取り組んでいる。2040年頃には年間約77.5万トンと予想される太陽光パネルの大量廃棄問題に対し、パネルメーカーとも共同でリサイクル研究プロジェクトを立ち上げ、太陽光パネルの精緻で適正なリサイクルスキームの構築を目指している。また、様々な使用済製品をリサイクル（破碎、選別）する過程で排出されるシュレッダーダストから、硬質プラスチックを回収し、最終処分されるシュレッダーダストの全体量の抑制と回収できる資源量の最大化に取り組んでいる。



高品質な再資源化・リサイクルを実現するために、次の3つの柱を立てている。

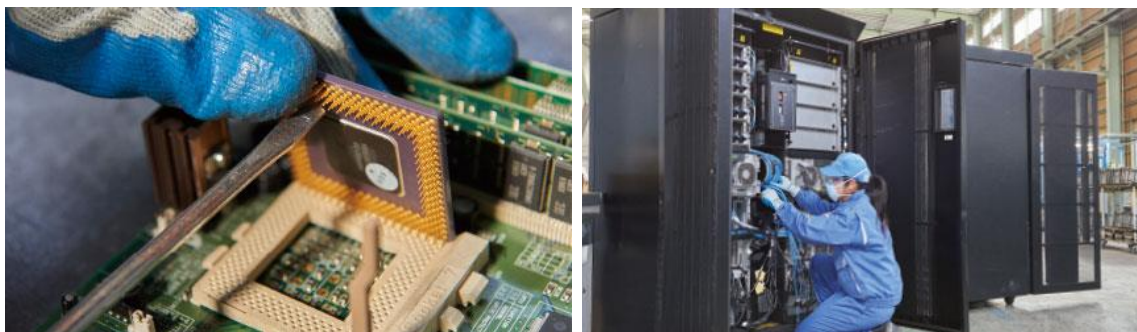
①技術開発

全国のリサイクル企業の中でも珍しく、ヒラキン独自に「技術開発部」を設立。精緻なりサイクルを実現するために製造者目線の新たな設備や技術を生み出し、みずから進化していくための牽引役として活動している。家電メーカーや素材メーカーとも共同開発を行い、試行錯誤を重ね、オリジナルの設備とノウハウを育てている。また、グループ企業の「ヒラキンテック株式会社」により、開発した機械の製造販売やメンテナンスを行っており、自社で生み出した技術やノウハウを業界内へ浸透させる取り組みも行っている。



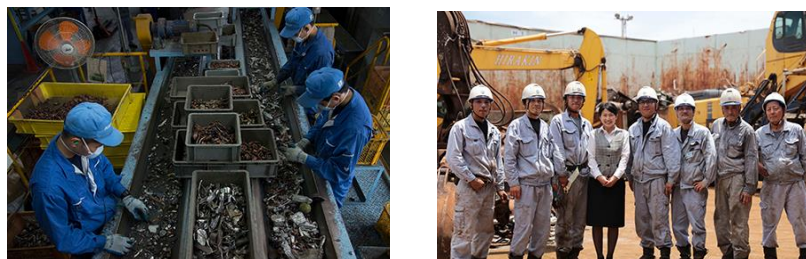
②徹底分解 徹底選別

「不純物が少なく、品質が安定」と定評のあるヒラキンブランドを保つために、機械の組み合わせを工夫し、既製品でまかなえないときは自分たちで作り、近赤外線センサーやX線選別センサーなど最新技術を取り入れ、目的に応じた分解・選別ラインを構築している。品質へのヒラキンのこだわりはこれにとどまらず、各工場のラインに必ず手分解と手選別を組み込み、極限まで分解・選別の精度を上げ、質の高い単位素材の安定的な提供を実現している。



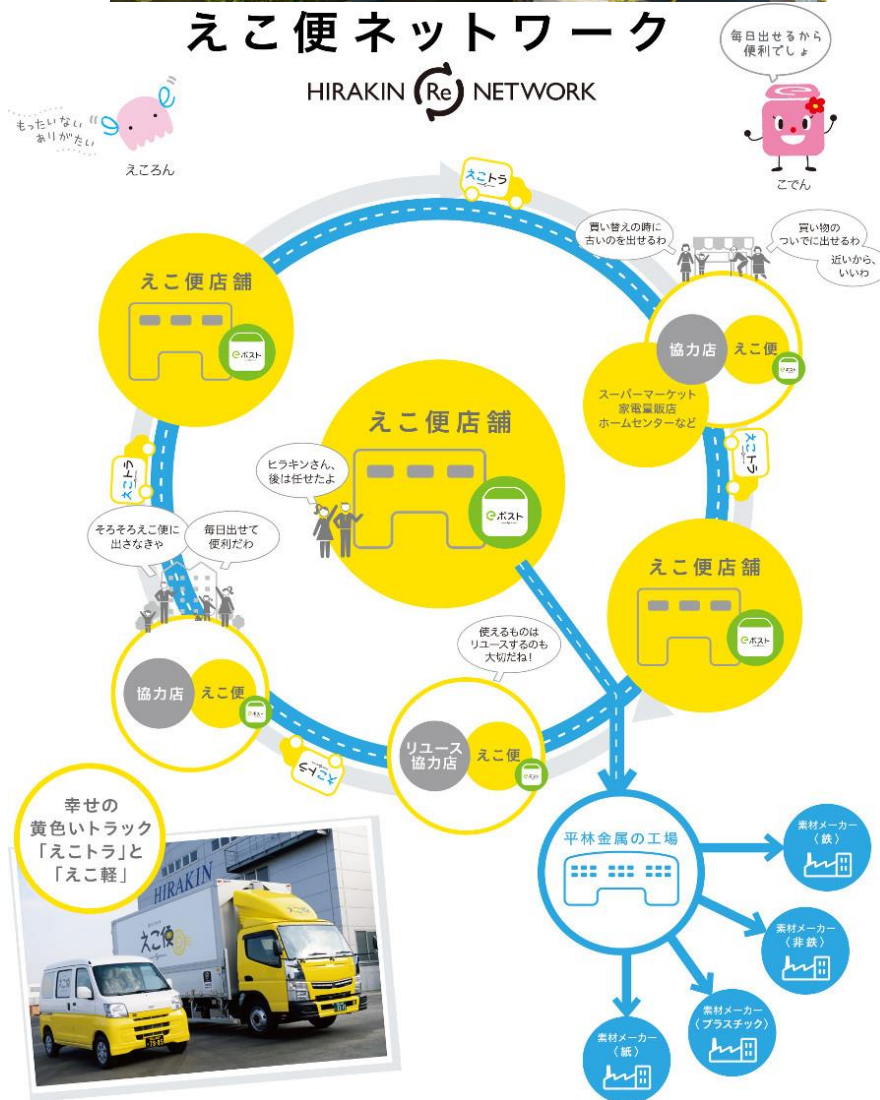
③社員の意識

「ハングリー・ハッスル・ヘルス」の社是のもと、元気で明るく前向きに全員で助け合い、支え合い、「斜に構えず、よしやろう！」と創意工夫をしながら働く社員の高い士気が3つ目の柱である。一般の人からは「廃棄物」にしか見えなくても、もったいない精神、が根付いているヒラキンでは「宝の山」となり、人が捨てたものでも、誇りを持って「貴重な仕事だ」と取り組む。暑い夏も寒い冬も黙々と作業する。そういう社員を事務スタッフも一生懸命にサポートする。このチームワークがヒラキンブランドを支える重要なピースである。



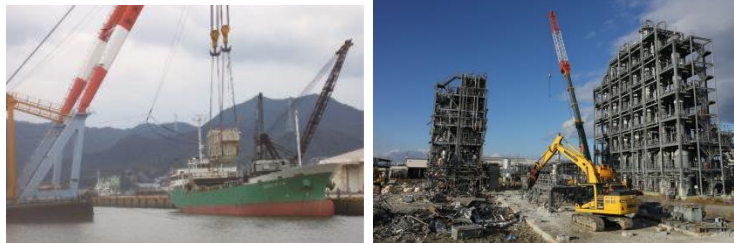
○えこ便

小型家電、金属類、古紙、パソコン・携帯電話など家庭で不用になったものを、ヒラキンが正しく回収し、再資源化するサービス。全国初の有人型資源集積システムである。近年、空き地や軽トラック、折り込みチラシなどを利用した違法回収が激増している。違法回収された廃家電の多くは、法定の処理をされず、金属スクラップとして山積みになされたり、不正に海外に売却されたりして、国内外で深刻な環境汚染を引き起こしている。そして、一番の問題は、大半の消費者がその事実を知らず、不用になった家電類を違法業者に出してしまっているということだ。「えこ便」は、違法回収の実態を広く知らせ、正しいサイクルの理解と推進につなげるための、ヒラキンの新たな取り組みである。家電リサイクル法に関して中四国では唯一、家電メーカーからの委託と大臣認定を受け、2013年には小型家電リサイクル法に関しても環境大臣および経済産業大臣から認定事業者として認められた。



○ヒラキン興産株式会社

工場プラントやビル・マンション、商業施設など、あらゆる建造物の解体から再資源化までを一気通貫で行い、質の高い資源循環を目指す取り組みとして、グループ内で解体工事と再資源化素材の売買を行う法人を設立している。様々な規模や種類、立地の建造物を安全に確実に解体し、平林金属との連携により、金属スクラップを適正評価することで、顧客の実質解体費の抑制と純度の高い再資源化素材の流通を実現できる。



○たからさがし株式会社

当社は、これまで取り組んできたリサイクルが「地球に優しい」事業とすれば、これからチャレンジすべきは「人に優しい」事業であると考えている。平林金属では、長年障がい者雇用に取り組んでおり、障がいを持ちながら働く社員の強い意志やポテンシャルに感銘を受け、彼らのような障がいがありながら働く意欲を強く持つ者を支援する就労継続支援A型事業所を岡山市北区御津に設立することを決めた。障がいのある方や難病のある方が、雇用契約を結んだ上で、個性やスキルに応じて、平林金属（株）御津第二工場で金属の分解や選別など、リサイクルに関わる軽作業に従事している。将来的に「たからさがし」での経験を通じて、知識や能力が高まった者は、平林金属グループをはじめとする、一般企業への就労など、各人の目標やライフスタイルに合わせた働き方を提案していく。



○農業事業・食の流通事業

グループ企業「葉豆溜農園株式会社」で運営しているコーヒーショップ「公園ベンチ」の関係性から、ネパールでのコーヒー栽培支援を行っている。生産地であるネパールの農業事業者が、安定的に収入が得られる栽培方法や出荷方法の指導、適正価格での日本国内での販売を、特定非営利活動法人AMDA社会開発機構と共同で行っている。また、岡山県瀬戸内市前島島内にて、コーヒー豆の露地栽培や残留農薬ゼロの野菜栽培を行い、前島島内の他の生産者の作物とともに、えこ便等の自社のネットワークを用いた販売体制の構築も行っている。



(3) 経営理念

平林金属は「ヒラキンイズム」に加え、以下のミッション、ビジョンを掲げ、「サーキュラーエコノミー」（循環型経済）の実現を目指している。

ビジョン

- ①「資源の有効利用」が、私達に課せられた地球環境保全に貢献できる最大の使命と認識し、使用済み製品の再使用や、主業である金属の再資源化をはじめ、様々な資源のリユース・リサイクルを推進します。
- ②「リサイクル＝環境負荷の低減」と言われています。私達は、その言葉を一步掘り下げて、事業活動で使用するエネルギーの効率化に努め、脱炭素社会の実現に寄与します。

ミッション

平林金属グループはSDGsという言葉ができる以前より持続可能なサイクルを続けて来ました。

世界的に気候変動への対応が求められている中、メイン製品である「鉄スクラップ」の価値が次第に高まりを見せており、「リサイクル原料＝カーボンニュートラル原料」と位置づけ、それらを持続的に供給する企業として、カーボンニュートラル実現にも寄与して行きます。

主業であるリサイクル事業は「地球に優しく」をテーマに行ってきたが、「人にも優しく」を新たなキーワードに加え、新規事業である、農業、食の流通事業、福祉事業を発展させ、2030年SDGs達成への貢献も目指します。

さらに、従業員が共有すべき価値観として以下を掲げている。

バリュー

「誰かがやらなければならない仕事だから、自分がやる。」

～人が捨てたものでも、誇りを持って「貴重な仕事だ」と取り組む。暑い夏も寒い冬も黙々と作業する。そういう社員を事務スタッフも一生懸命にサポートします～

プリンシプル

3H精神「ハングリー、ハッスル、ヘルス」と「MOTTAINAI ARIGATAI」の精神

～元気で明るく前向きに。礼儀とあいさつと笑顔と感謝も忘れません。全員で助け合い、支え合い、温かく、チームワークの強い職場です～

(4) サステナビリティ

サステナビリティへの具体的な取り組みとしては、全社で様々な活動を行っており、それらは次の表のとおりである。

	<ul style="list-style-type: none"> フェアトレードによるネパールでのコーヒー豆栽培支援 2015年4月に発生したカトマンズ大地震の被災者自立支援
	<ul style="list-style-type: none"> 産業医と連携した社員のメンタルヘルスクア 安全運転等、交通安全対策の強化 点字ブロック啓発活動
	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県内支援学校の実技研修支援 リサイクル、SDGs関連のセミナー開催 発展途上国の視覚障害児童の支援（ヒカリカナタ基金）
	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーレスなキャリアアップ制度の導入 長時間労働の禁止、時短勤務の推奨 男女育児休暇の実施
	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電所の設置（御津、米子、玉島） 太陽光パネルリサイクルの研究推進（再生原料の用途開発等）
	<ul style="list-style-type: none"> 就業規則、人事評価制度の見直しと明確化 住宅確保を通じた福利厚生強化 女性スタッフの声を経営へ反映させることによる風通し改善
	<ul style="list-style-type: none"> 他業種、メーカーとのリサイクル技術開発による高度リサイクルの確立 視察の受入等、海外とのリサイクル技術交流
	<ul style="list-style-type: none"> 本社、社宅、ライズ球場などのバリアフリー化推進 非常食の備蓄 安否確認サービスの導入
	<ul style="list-style-type: none"> 都市鉱山から金属資源を取り出し、天然資源の枯渇を抑制する 化学物質や廃棄物の適正回収と汚染防止 再生原料、資源の用途開発やそれらを使用した新製品開発
	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル原料（電炉材等）の供給によるCO2削減 温室効果ガス（フロンガス等）の回収 モーダルシフトによるCO2削減
	<ul style="list-style-type: none"> えこ便を活用した古紙リサイクル 県内環境美化活動への参加
	<ul style="list-style-type: none"> 違法リサイクル業者による海外への廃棄物不法輸出の防止

2. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析

- 当社は金属スクラップをはじめとする資源再生事業と、農業、障がい者福祉、スポーツ振興を行う地域関連事業の二つに事業領域を分けることができるため、インパクトマッピングも資源再生事業と新規事業の2つに分ける。

①資源再生事業

川上の事業	当社の事業	川下の事業
プラスチック製品製造業 (業種コード 2220)	プラスチック製品製造業 (業種コード 2220)	プラスチック製品製造業 (業種コード 2220)
第一次鉄鋼製造業 (業種コード：2410)	第一次鉄鋼製造業 (業種コード：2410)	第一次鉄鋼製造業 (業種コード：2410)
第一次貴金属・その他非鉄金属 製造業 (業種コード 2420)	第一次貴金属・その他非鉄金属 製造業 (業種コード 2420)	第一次貴金属・その他非鉄 金属製造業 (業種コード 2420)
民生用機械器具製造業 (業種コード 2750)	民生用機械器具製造業 (業種コード 2750)	民生用機械器具製造業 (業種コード 2750)
自動車製造業 (業種コード 2910)	解体業 (業種コード 4311)	自動車製造業 (業種コード 2910)
オートバイ製造業 (業種コード 3091)	廃棄物・スクラップ及び他に分類さ れないその他の製品の卸売業 (業種コード 4669)	オートバイ製造業 (業種コード 3091)
解体業 (業種コード 4311)	有害廃棄物収集業 (業種コード 3812)	
	有害廃棄物処理・処分業 (業種コード 3822)	
	材料再生業 (業種コード 3830)	

バリューチェーンを見ると、川上の事業にて発生した廃棄物を、当社が再生原料化、資源化し、川上の事業の担い手へ供給している。また、当社自体が川上の事業、川下の事業と同様の事業を行っている部分も大多数であるため、インパクトの特定を川上の事業、当社の事業、川下の事業を一体として行う。

②地域関連事業

当社の事業
野菜及びメロン、根菜及び塊茎の栽培 (業種コード 0113)
飲料用作物の栽培 (業種コード：0127)
宿泊施設のない高齢者・障害者向け社会事業 (業種コード 8810)
スポーツクラブ (業種コード 9312)

(3) インパクトレーダーによるマッピング

●●：対応必須
●：対応推奨

①資源再生事業

業種名	2220 プラスチック製品製造業		2410 第一次鉄鋼製造業		2420 第一次貴金属・其他非鉄金属製造業		2750 民生用機械器具製造業		2910 自動車製造業		3091 オートバイ製造業	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
インパクト												
水												
食料												
住居			●				●				●	
健康・衛生		●		●						●●		●●
教育												
雇用	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エネルギー												
移動手段									●●	●	●●	
情報												
文化・伝統												
人格と人の安全保障												
正義												
強固な制度・平和・安定												
水(質)		●●		●		●		●		●		●
大気		●		●		●		●		●		●
土壌		●●		●●		●●		●		●		●
生物多様性と生態系サービス												
資源効率・安全性		●		●●		●●		●		●●		●
気候		●		●		●		●		●●		●
廃棄物		●●		●		●		●		●		●
包括的で健全な経済	●		●		●		●		●		●	
経済収束									●		●	

業種名	4311 解体業		4669 廃棄物・スクラップ及び他に分類されないその他の製品の卸売業		3812 有害廃棄物収集業		3822 有害廃棄物処理・処分業		3830 材料再生業	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
インパクト										
水					●		●			
食料										
住居										
健康・衛生					●●		●●		●●	
教育										
雇用	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エネルギー										
移動手段										
情報										
文化・伝統										
人格と人の安全保障										
正義										
強固な制度・平和・安定										
水(質)		●		●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
大気		●		●		●		●		●
土壌		●		●	●●	●●	●●	●●	●●	
生物多様性と生態系サービス					●●		●●	●	●●	
資源効率・安全性		●	●			●		●	●●	●
気候		●	●	●	●	●	●	●		●
廃棄物		●●	●		●●	●	●●	●	●●	●
包括的で健全な経済	●				●		●			
経済収束			●							

②地域関連事業

業種名	113		127		8810		9312	
	野菜及びメロン、根菜及び塊茎の栽培		飲料用作物の栽培		宿泊施設のない高齢者・障害者向け社会事業		スポーツクラブ	
インパクト	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
水		●●		●●				
食料	●●		●●					
住居								
健康・衛生	●●	●	●●	●	●		●	
教育								
雇用	●●	●	●●	●	●●	●	●	●
エネルギー								
移動手段								
情報								
文化・伝統								
人格と人の安全保障		●●		●●	●			
正義								
強固な制度・平和・安定								
水（質）		●●		●●				
大気								
土壌		●●		●●				
生物多様性と生態系サービス								
資源効率・安全性		●●		●●				
気候		●●		●●				
廃棄物		●●		●●		●		●
包括的で健全な経済	●							
経済収束	●		●					

<カテゴリごとの検討>

発現したインパクトについて、カテゴリ毎の対応するSDGs ターゲットを整理する。当社事業と関連の無いカテゴリについては分析対象外とする。

- (i) 水、食料、健康・衛生、水（質）、土壌、大気、気候、資源効率・安全性、生物多様性、廃棄物、包括的で健全な経済
- ・ 当社は「サーキュラーエコミーの実現」を目指し、「ヒラキンズム」や前述のビジョン、ミッションのもと、廃棄物の再資源化、安全処理に取り組んでいる。
 - ・ 具体的な活動として、電炉を用いた再生鉄鋼材料の製造・供給、別名「都市鉱山」と言われる貴金属スクラップの回収などの金属資源の再生、家電製品の適正回収・処理とそこから発生するプラスチック・ガラス原料、フロンガス等有害物質の回収、古紙のリサイクルなどを行い、「リサイクル」、「廃棄物」と名の付くものであればなんでも再資源化・適正処理を可能としている。また、全分野廃棄物の再資源化・適正処理を実現するため、社内に技術開発部を設置し、リサイクル・処理技術の研究や機械設備の改修・開発を行い、「HIRAKINしかできないリサイクル」を実現している。また、有人型資源回収拠点「えこ便」による対面形式の家電・廃棄物回収や手作業による受け入れ廃棄物の選別など、「人の手」を活用する業務、工程にもこだわり、違法な廃品回収の撲滅や適正なりサイクルの啓発、高品質な再生資源提供を行っている。加えて、ISO14001認証を各工場・営業所ごとに取得し、厳正な環境マネジメントに取り組むほか、排水が発生しないプラスチックリサイクルプラントの導入を行い、自社の環境負荷低減にも取り組んでいる。

- 以上のことより健康・衛生、水（質）、土壌、生物多様性、資源効率・安全性、廃棄物のPI拡大と水（質）、土壌、大気、資源効率・安全性、廃棄物のNI縮小に寄与している。
- 地域関連事業においても、土壌に常在する菌を用いた残留農薬ゼロ農法の採用により、農薬による土壌・水質汚染の防止に努めている。また、地域で捨てられている野菜を各えこ便拠点にて販売することで、食品流通の改善を行い、資源の有効活用に取り組んでいる。これらにより食料のPI拡大と水、健康・衛生、水（質）、土壌、大気、資源効率・安全性、廃棄物のNI縮小に寄与している。
- SDGs では「3.9：有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡および疾病の件数を大幅に減少させる」「6.3：汚染の減少、投棄廃絶と有害な化学物や物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用」「11.6：都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する」「12.4：合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する」「12.5：廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」「14.1：海洋堆積物や富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止する」のターゲットに該当すると考えられる。

(ii) 雇用、人格と人の安全保障、経済収束

- 当社は、人事評価制度の明確化や就業規則の定期的な見直しを行い、公正な雇用関係構築に取り組んでいる。また、福利厚生の中で住宅確保による県外/海外出身者の生活環境の支援や業務・工程の見直し、機械化による社員の負荷軽減、女性スタッフの声を経営に反映させる仕組みの構築を行い、就業環境の向上にも努めている。
- 地域関連事業においても、就労継続支援A型事業所「たからさがし」による障がい者就労支援や平林金属本体への就労移行を行い、障がい者の活躍機械の創出に取り組んでいる。また、ネパールにおけるコーヒー栽培では、現地の生産者が他国への出稼ぎによる搾取の被害者にならないよう、適切な水準の賃金を安定して得られるコーヒー栽培方法や流通方法の指導を行っている。この取り組みは、従前では就労場所の無かったネパールの女性たちの就労機会創出にもつながっており、女性の自立支援にもつながっている。加えて、自社チームの男女ソフトボール選手だけでなく、岡山県内の女子軟式野球選手や障がい者スポーツ選手を積極的に雇用し、選手たちが安心して競技に打ち込める環境を整えている。
- 以上の取り組みにより、雇用、人格と人の安全保障のNI縮小と、雇用、人格と人の安全保障、経済収束のPI拡大に寄与している。
- SDGs では「1.2：貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる」「4.4：技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる」「5.b：女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する」「8.5：若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する」「10.2：年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する」のターゲットに該当すると考えられる。

(iii) 気候

- 当社は、機材の更新やCO2排出抑制・高効率型機材のメーカーとの共同開発、商材の運送方法効率化（トラックから鉄道へのモーダルシフト等）により、自社の環境負荷低減を進めることで、気候のNI縮小に寄与している。

- また当社は、鉄スクラップを電炉にて再生鉄鋼材料へ転換し、各種メーカーへ出荷しており、高炉材よりも製造時にCO₂の少ない電炉材の普及に貢献している。また、再生鉄鋼材料を流通させることにより、新たな材料生産に伴う温室効果ガス排出を回避することができる。このことから、気候のNI縮小とPI拡大に寄与している。
- SDGs では「13.1：気候関連災害や自然災害に対する強靱性及び適応力を強化する」等のターゲットに該当すると考えられる。

(4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、当社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

環境（Environment）

カーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの実現

当社は「サーキュラーエコノミー」の実現を目指し、金属資源の再生、家電製品の適正回収・処理とそこから発生するプラスチック・ガラス原料、フロンガス等有害物質の回収を行っており、近年では特に、えこ便を用いた家電回収と高リサイクル率を達成する家電リサイクル専門工場「リサイクルファーム御津」の開設を行い、廃棄家電のリサイクル強化に取り組んでいる。この家電リサイクルで培った、加工・選別技術を同業他社へも提供し、プラスチックやガラスのリサイクル分野全体の進化へも貢献を果たしていく。金属再生においても、電炉にて再生鉄鋼材料へ転換し、各種メーカーへ出荷しており、高炉材よりも製造時にCO₂の少ない電炉材の普及に貢献している。また、再生鉄鋼材料を流通させることにより、新たな材料生産に伴う温室効果ガス排出を回避することができる。自社の環境負荷低減についても、機材の更新やCO₂排出抑制・高効率型機材のメーカーとの共同開発、商材の運送方法効率化（トラックから鉄道へのモーダルシフト等）を進めている。

このインパクトはUNEP FI のインパクトレーダーでは「水」「食料」「健康・衛生」「水（質）」「土壌」「大気」「資源効率・安全性」「生物多様性」「気候」「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境面のPIの拡大と、NIを緩和すると考えられる。SDGs では「3.9：有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡および疾病の件数を大幅に減少させる」「6.3：汚染の減少、投棄廃絶と有害な化学物質や物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用」「11.6：都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する」「12.4：環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する」「12.5：廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」「13.1：気候関連災害や自然災害に対する強靱性及び適応力を強化する」「14.1：海洋堆積物や富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止する」等のターゲットに該当すると考えられる。

社会（Social）

食の流通事業・農業（作物栽培）・福祉事業の深化

当社はグループ内に、農業と食品流通を事業内容とする葉豆瑠農園株式会社を設立し、土壌菌を活用した残留農薬ゼロ野菜の栽培やコーヒー豆の露地栽培、ネパールで生産されたコーヒー豆を取扱うカフェ「公園ベンチ」の運営を行っている。自社の生産数・販売数の増強を行いながら、他の生産者が生産する作物で、通常の販売が難しい作物を、えこ便をはじめとする平林金属のプラットフォームを活用した販売も行い、日本全体の食糧自給力強化に挑戦する。また、グループ企業たからさがし株式が運営する就労継続支援A型事業所の就労支援を強化し、利用者のグループ内外への一般就労移行を進め、障がい者の自立支援にも積極的に取り組んでいく。

このインパクトはUNEP FI のインパクトレーダーでは「食料」「雇用」「人格と人の安全保障」「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、社会的・経済的側面のPIを拡大すると考えられる。SDGs では「4.4：技術的・職業的スキルなど、雇用、

働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる」「8.5:若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する」「10.2:年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する」等のターゲットに該当すると考えられる。

国内外の貧困問題へのアプローチ

当社は、ネパールでのコーヒー栽培支援を行っている。現地の生産者が、他国への出稼ぎによる経済的搾取の被害者にならないよう、適切な水準の賃金を安定して得られるコーヒー栽培方法や流通方法の指導を、特定非営利活動法人AMDA社会開発機構と共同で行っている。この取り組みは、従前では就労場所の無かったネパールの女性たちの就労機会創出にもつながっており、女性の自立支援にもつながっている。

このインパクトはUNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」、「人格と人の安全保障」、「経済収束」のカテゴリに該当し、PIを拡大し、NIを緩和すると考えられる。SDGs では「1.2:貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる」「4.4: 技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる」「8.5:若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する」「10.2:年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する」等のターゲットに該当すると考えられる。

生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障がい者アスリートへの支援

当社は男女ソフトボールと男子軟式野球の実業団チームを保有しており、毎年リーグ優勝やリーグ上位の成績を残すなど、強豪チームとして知られている。また、選手や監督・コーチが地域のソフトボール・野球教室へゲスト講師として参加するほか、小学生のソフトボール大会「ライズカップ」を開催し、岡山地域のスポーツ振興に取り組んでいる。

「スポーツには社会の窮状に元気を届ける力」という創業者、平林久一氏の信念のもとに、障がい者スポーツ選手や女子軟式野球選手の雇用、競技支援など、今まで以上に幅広いスポーツ振興に取り組み、地域の魅力向上に貢献していく。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「健康・衛生」「雇用」のカテゴリに該当し、社会的・経済的側面のPIを拡大すると考えられる。SDGs では「3.4: 非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する」「8.5:若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する」等のターゲットに該当すると考えられる。

企業統治 (Governance)

女性社員の活躍機会拡大

リサイクル業界全体において、女性活躍推進の必要性が高まっている。日本国内の就労年齢人口の減少もあり、業界への就職人数は年々減少しており、当社の人事戦略も見直しが必要となっている。この流れに対し、えこ便の対面式資源回収業務を開始し、女性でもリサイクル業界で活躍できる機会を作り出してきた。また、女性ならではのきめ細かい作業や発案が今後期待でき、さらなる女性活躍の推進が社内でも求められていることから、当社は手作業に頼る業務や工程の見直しや機械化を推進し、性差やフィジカルに囚われないリサイクルの現場づくりに取り組んでいく。さらに、業務内容の見直しや新規事業の体制強化を行い、柔軟な勤務体制・内容を創出することで、女性だけでなく誰もが働きやすい制度・環境づくりを行っていく。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会的なPIを拡大すると考えられる。SDGs

では「5.b：女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する」「8.5：雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」等のターゲットが該当すると考えられる。

(5) インパクトニーズの確認、百十四銀行との方向性の確認

①国内におけるインパクトニーズ

- 国内の「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと当社のインパクトを確認する。
- 当社のインパクトに対するSDGsは、「1、3、4、5、6、8、10、11、12、13、14」に対して、国内におけるSDGsダッシュボードでは、「5、12、13、14、15、17」において、大きな課題が残る、「3、5、8、10、11」において、課題が残るまたは重要な課題が残っており、国内のインパクトニーズと当社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



③百十四銀行が認識する社会課題との整合性







- 百十四銀行は、「百十四グループのサステナビリティ」において「地域経済活性化への取組み」「人生100年時代への対応」「多様な人材が活躍・成長できる環境の整備」「DXの実現と地域社会のデジタル化」「気候変動等、環境課題への取組み」「持続可能な経営基盤の構築」の6つを重要課題（マテリアリティ）としている。
- 当社の特定したインパクトにおいて、環境に関連するインパクトは、百十四銀行の「気候変動等、環境課題への取組み」と方向性が一致する。
- 「食の流通事業・農業(作物栽培)・福祉事業の深化」「国内外の貧困問題へのアプローチ」「生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障がい者アスリートへの支援」は、百十四銀行の「多様な人材が活躍・成長できる環境の整備」「地域経済活性化への取組み」と方向性が一致する。
- 「女性社員の活躍機会拡大」は、百十四銀行の「多様な人材が活躍・成長できる環境の整備」「地域経済活性化への取組み」と方向性が一致する。

以上のように、百十四銀行は本件の取組みが、SDGsの達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。




3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれにKPI を設定する

カーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの実現

項目	内容
インパクトの種類	環境的・社会的側面においてPI を拡大、NI を緩和
カテゴリ	「水」「健康・衛生」「水（質）」「土壌」「大気」「気候」「資源効率・安全性」 「生物多様性と生態系サービス」「廃棄物」
関連する SDGs	     
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・加工・選別技術を他社へも提供し、プラスチックやガラスのリサイクル技術を底上げする ・カーボンニュートラル素材である再生鉄鋼材料の流通を促進する ・他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI	2030年までに硬質プラスチック回収量年330トンを目指す 2040年までに他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する


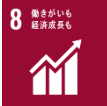
食の流通事業・農業(作物栽培)・福祉事業の深化

項目	内容
インパクトの種類	経済的、社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「食糧」「雇用」「人格と人の安全保障」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	  
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・残留農薬ゼロ野菜を自社プラットフォームを活用して販売していく ・農業にバックグラウンドを持つ人を雇用する ・就労継続支援A型事業所への仕事創出と人手不足へのマッチングを行う
KPI	2030年までにたからさがし(株)からの一般就労移行を7人目指す



国内外の貧困問題へのアプローチ

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大、NI を緩和 経済的側面において PI を拡大
カテゴリ	「雇用」「人格と人の安全保障」「包括的で健全な経済」「経済収束」
関連する SDGs	   
内容・対応方針	国内NPO法人と協力をして、コーヒーの栽培に従事するネパールの農家へ栽培方法の指導と販売ルートの確立に取り組む
KPI	2030年までにコーヒー豆年間流通量4,500kgを目指す

生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障がい者アスリートへの支援

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「健康・衛生」「雇用」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者アスリート（走り高跳び、軟式野球）の応援 男女ソフトボール・軟式野球選手の応援 （ソフトボール・軟式野球チームの運営、選手の雇用） スポーツ推進課の活動継続 （ライズカップ、プロスポーツ教室、地域のソフトボール教室への協力）
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール、軟式野球チームの強化と選手の雇用促進 スポーツ教室の開催継続と地域との連携強化

女性社員の活躍機会拡大

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 機械化等により、性差やフィジカルに囚われないサイクル業務を推進する 業務内容の見直しや新規事業の体制強化を行い、柔軟な勤務体制・内容を創出する
KPI	2030年までに「現場女子」を3人にする（女子ソフトボール選手を除く）

4. モニタリング

(1) 平林金属におけるインパクトの管理体制

- 当社では、経営企画部を中心に CSR レポートを通じて自社業務の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。
- 今後についても、毎年会社が策定する運営方針に従って、各部署が SDGs の推進、並びに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 百十四銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、当社と百十四銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、百十四銀行が現時点で入手可能な公開情報、平林金属から提供された情報や当社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 百十四銀行が本評価に際して用いた情報は、百十四銀行がその裁量により信頼できると判断したものはあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は百十四銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。



セカンドオピニオン

平林金属株式会社

ポジティブインパクトファイナンス

2023年6月30日

ESG 評価本部

担当アナリスト：新井 真美

格付投資情報センター（R&I）は百十四銀行が平林金属に対して実施したポジティブインパクトファイナンスについて国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が制定したポジティブインパクト金融原則（PIF原則）に適合していることを確認した。

R&Iは別途、百十四銀行の114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制が PIF 原則に適合していることを確認している¹。今回のファイナンスに関して百十四銀行の調査資料の閲覧と担当者への質問を実施し、実施体制の業務プロセスが PIF 原則に準拠して適用されていることを確認した。

百十四銀行が実施するインパクトファイナンスの概要は以下のとおり。

(1) 融資先

社名	平林金属株式会社
所在地	岡山市
設立	1960年7月
資本金	99百万円
事業内容	鉄・非鉄金属及び使用済み家電・自動車のリサイクル事業 <グループ企業> 解体工事業、障害者福祉事業、農業、食品流通事業
売上高	209億円（2022年12月期）
従業員数	401名（2023年3月末時点）

鉄の再資源化を祖業とする総合リサイクル事業者。1956年の創業以来、時代とともに変化する製品素材に対応し、家電や自動車、産業機器など様々な使用済み製品のリサイクルを手掛ける。業界でも数少ない技術開発部を持ち、家電メーカーや素材メーカーとの共同開発などを通じて製造者目線の新たな設備や技術を生み出している。こうした独自のノウハウにより、鉄はもとより非鉄金属やプラスチック、希少金属などの純度の高い再生資源の生成を実現している。企業からの回収にとどまらず、全国初となる一般家庭からの排出物を対象とした有人型資源集積システムも運営する。違法回収の実態を地域に広く知らせるとともに、正しいリサイクルへの理解を促進する。新規事業も積極的に展開し、グループ企業を中心に障害者福祉事業や農業等にも取り組む。農業分野の一環であるカフェ運営に付随する形で、海外のコーヒー農家の経営支援プロジェクトにも参画している。このほか、安定した経営基盤を生かして実業団チームも運営しており、地域のスポーツ振興を通じてさらなる企業価値向上を図る。

(2) インパクトの特定

百十四銀行は融資先の事業内容や活動地域等についてヒアリングを行い、バリューチェーンの各段階において発現するインパクトを分析した。

融資先グループの主要事業に関連するインパクトを UNEP FI が提供するインパクトマッピングのデータから洗い出した。主軸であるリサイクル事業と、障害者福祉事業・農業を中心とする地域関連事業のそれぞれについて確認している。融資先はサーキュラーエコノミーの実現に向け、独自の技術を生かして多

¹ 2023年3月31日付セカンドオピニオン「百十四銀行 114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制」

https://www.ri.co.jp/news_release_suf/2023/04/news_release_suf_20230403_jpn_2.pdf

岐にわたる製品のリサイクルに取り組んでおり、環境面を中心にポジティブな影響を与えている。機械による加工だけでなく手作業による分解・選別の工程を組み込み、不純物の少ない高品質なリサイクル原料の供給を可能にしている。従来は対応が難しいとされてきた素材のリサイクル技術の開発にも積極的に取り組む。足元では、今後大量廃棄が見込まれる太陽光パネルのリサイクルスキーム構築を目指してパネルメーカーと共同研究を進めている。BtoBの取引にとどまらず、一般家庭から排出される廃棄物にまで回収の対象を広げている。利便性の高い集積施設を設置することで地域における正しいリサイクルの実践を牽引し、ポジティブインパクトを拡大させている。自社の事業活動に伴う環境負荷低減に向けた取り組みとしては、ISO14001取得や高効率機器への切り替え、商材の運送方法効率化を進めている。グループ企業では就労継続支援A型事業所の運営を通じて障害者のスキル向上をサポートし、自社グループを含む一般企業への就労を促進している。農業分野においては残留農薬ゼロの野菜栽培やコーヒー豆の露地栽培に取り組む、リサイクル事業で構築した廃品回収ネットワークも生かしながら販売体制を強化している。運営するカフェでは、自社生産のものに加えてネパールの農家から輸入したコーヒー豆も販売する。現地農家に対して栽培・出荷方法の指導も行い、NPO法人と協働しながら零細農家の安定収入確保を支援している。こうした新規事業の推進により、社会面・経済面においてもポジティブインパクトを創出している。自社においては、労働環境の整備によって女性活躍を推進するほか、実業団チームや障害者アスリートの支援にも注力する。

百十四銀行は上記分析で特定したインパクトカテゴリーをSDGsに対応させ、インパクトニーズを確認した。融資先は国内での事業活動が中心であるため、持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)が提供する日本のSDGダッシュボードを参照し、環境保全や気候変動対策に資する取り組みのニーズが特に高いことを確認した。

百十四銀行は融資先におけるインパクトとして「カーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの実現」「食の流通事業・農業(作物栽培)・福祉事業の深化」、「国内外の貧困問題へのアプローチ」「生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障害者アスリートへの支援」「女性社員の活躍機会拡大」を特定した。これらのインパクトは、百十四銀行が掲げる6つの重点課題(マテリアリティ)のうち「気候変動等、環境課題への取り組み」「多様な人材が活躍・成長できる環境の整備」「地域経済活性化への取り組み」と方向性が一致することを確認した。

(3)インパクトの評価

百十四銀行は特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理してKPIを設定した。

① カーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの実現

インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトの拡大、ネガティブインパクトを緩和 環境的側面におけるポジティブインパクトの拡大、ネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリ	「水」「健康・衛生」「水(質)」「土壌」「大気」「気候」「資源効率・安全性」 「生物多様性と生態系サービス」「廃棄物」
関連するSDGs	     
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 加工・選別技術を他社にも提供し、プラスチックやガラスのリサイクル技術を底上げする カーボンニュートラル素材である再生鉄鋼材料の流通を促進する 他業種と連携し、太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までに硬質プラスチック回収量330トン/年を目指す 2040年までに他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する

② 食の流通事業・農業（作物栽培）・福祉事業の深化

インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「食糧」「雇用」「人格と人の安全保障」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	  
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留農薬ゼロ野菜を、自社プラットフォームを活用して販売していく ・ 農業にバックグラウンドを持つ人材を雇用する ・ 就労継続支援 A 型事業所への仕事創出と人手不足のマッチングを行う
KPI	2030 年までに、グループ企業たからさがし株式会社（就労継続支援事業所運営）からの一般就労移行 7 人を目指す

③ 国内外の貧困問題へのアプローチ

インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大、ネガティブインパクトを緩和 経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」「人格と人の安全保障」「包括的で健全な経済」「経済収束」
関連する SDGs	   
対応方針	国内 NPO 法人と協力し、コーヒー栽培に従事するネパールの農家への栽培方法指導と販売ルートの確立に取り組む
KPI	2030 年までにコーヒー豆の年間流通量 4,500kg を目指す

④ 生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障害者アスリートへの支援

インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「健康・衛生」「雇用」
関連する SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者アスリート（走り高跳び、軟式野球）の応援 ・ 男女ソフトボール・軟式野球選手の応援（ソフトボール・軟式野球チームの運営、選手の雇用） ・ スポーツ推進課の活動継続（ライズカップ、プロスポーツ教室、地域のソフトボール教室への協力）
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトボール、軟式野球チームの強化と選手の雇用促進 ・ スポーツ教室の開催継続と地域との連携強化

⑤ 女性社員の活躍機会拡大

インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械化等により、性差やフィジカルにとらわれないリサイクル業務を推進する ・ 業務内容の見直しや新規事業の体制強化を行い、柔軟な勤務体制・内容を創出する
KPI	2030 年までに「現場女子」を 3 人にする（女子ソフトボール選手を除く）

(4) モニタリング

百十四銀行は、融資先の担当者との面談を少なくとも年に1回実施し、本 PIF で設定した KPI の進捗状況について共有する。日々の営業活動を通じた情報交換も行い融資先のインパクト実現に向けた支援を実施する。

以上

【留意事項】

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関又は民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対する R&I の意見です。R&I はセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&I はセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&I がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&I は、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&I は、セカンドオピニオン及びこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&I は、R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとし）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何や R&I の帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&I に帰属します。R&I の事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】

R&I は 2016 年に R&I グリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017 年から ICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則/ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018 年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&I の評価方法、評価実績等については R&I のウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に記載しています。

R&I と資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。